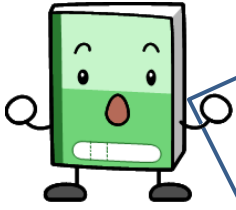


「指導と評価の一体化」のための学習評価（中学校社会科のポイント）



- 知識については、社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた**社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識**の獲得が求められています。技能については、「中学校学習指導要領解説社会科編」に記載の「**社会的事象等について調べまとめる技能（参考資料3）**」を参考にして、評価規準を設定します。
- 思考・判断・表現については、各単元で、それぞれの「**見方・考え方**」を視野に、「**～に着目して**」のように**具体的な視点等を組み込んだ評価規準**を設定します。
- 単元を見通した「**問い**」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする学習の充実を図ります。
- 主体的に学習に取り組む態度については、「**主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養**」「**よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成**」が必要です。社会科の特性を踏まえ、ある程度長い区切りの中で評価することが大切です。

単元名

民主政治と政治参加

内容のまとめり

- C 私たちと政治
- (2) 民主政治と政治参加

1 単元の目標

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

- ・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、国民の権利を守り社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があること、地方自治の基本的な考え方について理解する。
- ・民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。 ・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。 ・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 ・地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。 <p>内容の取扱いの記載事項Aを参考にして設定します。</p> <p>内容のまとめり（単元）によっては、「知識・技能」の評価規準に、「技能」について設定されない場合があります。その場合でも、課題を追究したり解決したりする過程で、これまで学んできた「調べまとめる技能」が発揮され、さらに確かな習得が図られることが大切です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 <p>「～に着目して」のように具体的な視点等を示し、内容の取扱いの記載事項Iを参考にして設定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 <p>「__について」の部分は、この「内容のまとめり」で対象とする学習指導要領上の「諸事情」を当てます。</p> <p>公民的分野では「現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている」、地理的分野・歴史的分野では「よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究（、解決）しようとしている」を当てはめます。</p>

3 指導と評価の計画（22時間）

◆ 単元における問いの構造

深い学びを実現するために、「社会的な見方・考え方」を働かせる問いを設定することの重要性が指摘されています。

それまでの生徒の学習状況などを的確に把握し、問いに対する生徒の発言や活動をよく予測した上で、必要な助言、支援を準備しておくことが大切です。

【単元を貫く問い】※単元の導入及び単元のまとめで生徒に提示
社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。

【第一次の問い】社会に見られる課題を解決するために、私たちはどのように情報を入手し、判断して、物事を決めるのがよいだろうか。

【第二次の問い】社会の課題となっている食品ロスを解決するために、主権者である私たちはどのように国の政治に関わっていくのがよいだろうか。

【第三次の問い】裁判において公正に判断する上で大切なことはどのようなことだろうか。

【第四次の問い】よりよい〇〇市にするために、〇〇市議会議員補欠模擬選挙で、誰に投票したらよいだろうか。

効果的・効率的な評価を行うための工夫として、評価を行う場面や頻度の精選を踏まえ、観点別学習状況の評価や評定に用いる「評定に用いる評価」と、観点別学習状況の評価や評定に用いないものの、学習状況を見取り、生徒の成長を認め励ますとともに必要に応じて指導、支援を行う「学習改善につなげる評価」を明示しています。

◆ 指導と評価の展開例（一部のみ）

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

次	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
単元の導入 1時間	<p>【ねらい】単元を貫く問い「社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。」について、疑問を出し合うなど対話的な活動を通して学習課題を設定するとともに、この問いに対する答えを予想したり、この問いの解決に役立ちそうな情報を挙げたりするなど、課題解決への見通しをもたせる。</p> <p>◇（学習活動の概要）グループでの対話的な学習で、単元を貫く問いに対する疑問を挙げながら、学習課題を設定するとともに、課題解決への見通しを立てる。</p> <p>問（主発問）「社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。」について疑問はないだろうか。また、この問いをどのように解決したらよいだろうか。</p> <p>〔予想される疑問〕 「よりよい社会とはどのような社会か。」 「様々な考えがある中で、どのようにして社会全体で取り組むのか。」など</p> <p>留（指導上の留意点） ・大項目C(1)の「人間の尊重についての考え方」、「日本国憲法の基本的原則」や小学校社会科における我が国の政治に関する学習成果を生かすようにする。</p>			●	<p>●対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、学習課題を見いだし、この問いに対する答えを予想したり、この問いの解決に役立ちそうな情報を挙げたりするなど、解決への見通しを立てている。（ワークシート）</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」を育成し、評価を行う際には、生徒が学習の見通しを立てる機会を設けることが重要です。</p>
	第一次 「社会の課題を解決するためには」 4時間 (省略)				
第二次 6時間	<p>【第二次のねらい】「食品ロス削減推進法」の成立やその取組を例に、主権者である国民が直接選んだ代表者で構成される国会や、国会の信任に基づき成立する内閣の仕組みと役割を理解させ、私たちがどのように政治に参加していくべきか、対話的な活動を通して考察、構想させる。</p> <p>【第二次の問い】社会の課題となっている食品ロスを解決するために、主権者である私たちはどのように国の政治に関わっていくのがよいだろうか。</p> <p>◇「食品ロス削減推進法」の成立やその取組を中心に食品ロスへの取組について調べ、国会と内閣の働きが人々や社会に与える影響について考察する。</p>			●	<p>●食品ロスへの取組について、統計、新聞、インターネットなどから情報を収集している。（ワークシート）</p>

	<p>問 食品ロスを改善する動きは、どのようにして始まったのだろうか。</p> <p>留) 消費に関する学習につなげるようにする。</p> <p>◇ 国会の役割とその意味を考察し、理解する。</p> <p>問 国会はどのような役割を果たしているのか、またどのような仕組みで運営されているのか。</p> <p>◇ 内閣の役割とその意味を考察し、理解する。</p> <p>問 内閣はどのような役割を果たしているのか、またどのような仕組みで運営されているのか。</p> <p>◇ 三権の役割について憲法などを基に調べ、権力分立制の意味について考察し、理解する。</p> <p>「社会的な見方・考え方」を働かせ、習得した知識及び技能を活用しながら考察、構想し、表現できているかを評価します。「学習改善につなげる評価」(●)で、「～に着目して」の具体的な概念に着目していない場合、これらについて復習したり、考察する際に着目できるよう必要な指導や助言を行ったりすることが大切です。</p> <p>問 なぜ権力分立制がとられているのか。</p> <p>◇ 単元の見通しに立ち返ってここまでの学習を振り返る。</p> <p>問 私たちが社会の課題を解決するために、主権者として国の政治にどのように関わることができるだろうか。法律ができれば大丈夫だろうか。</p> <p>留) 本次の学習では、小学校第6学年における政治に関する学習成果を生かすようにする。</p> <p>「評定に用いる評価」(○)の前に「学習改善につなげる評価」(●)が位置付けています。</p> <p>これは、教師が各生徒の学習状況を見取り、必要な指導を行い、生徒が学習状況の改善の機会を設けた上で、「評定に用いる評価」(○)を行うことを意味しています。</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>● ●</p> <p>●</p>	<p>● 国会の役割と仕組みについて理解している。(ワークシート)</p> <p>● 内閣の役割と仕組みについて理解している。(ワークシート)</p> <p>● 権力分立制の意味について理解している。(ワークシート)</p> <p>● 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、権力分立制の意味について多面的・多角的に考察し、分かりやすく表現している。(ワークシート)</p> <p>● 「単元の導入」に立てた見通しを踏まえて、学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだしている。(ワークシート)</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」を育成し、評価を行う際には、学習を振り返る機会を設けたり、教師や他の生徒による評価を伝える機会を設けたりすることが重要です。</p> <p>● 我が国の政治や政治参加について関心をもち、問いを見だし、その社会的意義を記述している。(ワークシート)</p> <p>○ 国会、内閣を中心とする我が国の民主政治の仕組みとその意味を理解している。(ワークシート、ペーパーテスト)</p>
	<p>第三次 「公正な裁判の保障により人々の人権を守るためには」 4時間 (省略)</p>		
	<p>第四次 「私たちが住む地域の課題を私たちの力で解決していくためには」 6時間 (省略)</p>		
<p>単元のまとめ</p> <p>1時間</p>	<p>【「単元のまとめ」のねらい】 単元を貫く問いに戻り、主権者である国民の政治参加の在り方について考察、構想させる。また、単元の学習を振り返らせる。</p> <p>【単元を貫く問い】 社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。</p> <p>◇ 前次に実施した模擬選挙の投票と結果に対する考察を基に、社会をよりよいものにするために主権者として政治にどのように関わるかを考察、構想する。</p> <p>問 【単元を貫く問い】 社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。</p> <p>留) 単元を貫く問いに対し自らの考えをまとめる際は、具体的な現実社会の諸課題を取り上げ、社会参画を視野に、自らの行動と結び付けて考察、構想するよう指導する。</p>	<p>○</p>	<p>○ 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、主権者として政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。(ワークシート)</p>

<p>「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」については、単元末で、単元の始めに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすこととして見いだした内容により評価します。</p> <p>「主体的に社会に関わろうとする態度」については、単元の学習後も関心をもって自ら追究し続けたい、解決、改善を図っていきたいこととして見いだした、問いの内容とその社会的意義の記述によって評価します。</p>	○	<p>○単元の導入に立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだしている。(ワークシート)</p> <p>○我が国の政治や政治参加について関心をもち、問いを見だし、その社会的意義を記述している。(ワークシート)</p>
--	---	---

【各観点の学習評価の総括】

単元における観点ごとの評価については、「評定に用いる評価」を基に、下表のように行うことが考えられる。なお、「学習改善につなげる評価」(●)については、表中の評価場面に限らず、適宜実施し、生徒にフィードバックして資質・能力の育成を図るようにする。

(例)

氏名	観点\次	単元の導入	第一次	第二次	第三次	第四次	単元のまとめ	単元の観点別評価
国研太郎	知・技		●→ ○25%	●→ ○25%	●→ ○25%	●→ ○25%		A~C
	思・判・表		●	●	●	●	○100%	A~C
	主体的態度		●	●			○100%	A~C

知識については、「次」ごとに身に付けるべき知識がある場合、これを確実に習得させるため、「次」ごとに評価するのが望ましいと考えられます。

主体的に学習に取り組む態度については、ある程度長い区切りの中で、適切な頻度で評価することが望ましいと考えられます。

※ 観点による評価回数や評価場面の時期の違いは、それぞれの観点の特質によります。



学習指導と同様に学習評価の方法についても、既存の評価問題やワークシートを見直し、改善を図る等、不断の改善が求められています。

【評価方法の工夫】

○従前の評価問題を改善した例（地理的分野）

【問題文】次の文は、ある国で見られる伝統的な住まいや料理についての説明です。このような伝統的な生活が見られる国とは、どの国ですか。選択肢ア～エのうち最も適切なものを選びその記号を書きなさい。

改善前	改善後
<p>【説明文】この国では、かまどで温められた空気を床下に通すオンドルと呼ばれる構造の住居や、白菜をはじめとする様々な野菜を漬けたキムチと呼ばれる漬物などが有名です。</p> <p>【選択肢】 ア 大韓民国 イ 中華人民共和国 ウ 日本 エ ベトナム</p>	<p>【説明文】この国では、かまどで温められた空気を床下に通す床暖房システムや、白菜などの野菜と新鮮な海産物などの食材を併せて用いた漬物などが有名です。</p> <p>【選択肢】</p>

なお、この見直しによって、右の表のとおり、正答に至らなかった生徒に対しても、「寒冷地」と「臨海地」のどちらの条件を見落として誤答に至ったかの分析が可能であり、それらの生徒に対する次の手立てを考える誤答分析が可能である。

	寒冷地	臨海地
ア(ニゼール)	×	×
イ(モンゴル)	○	×
ウ(シンガポール)	×	○
エ(大韓民国)	○	○

従前は個別の知識の獲得を問う評価問題であったものを、説明文と解答群の記述を差し替えることで、説明文中から読み取れる生活様式と地図中から引き出せる空間情報を結び付ける力を問う評価問題とすることが可能となっている。

事実的な知識の習得を問うだけでなく、基礎的・基本的な知識・技能を前提として、見方・考え方を働かせたり、学習を通して総合化・概念化された知識・技能を活用したりしながら考察することを通して答えを導き出す過程をたどらせる等、作問を工夫することで、思考力を問うペーパーテストを実現することが可能になります。

○「単元のまとめ」のワークシート（B評価の生徒）の例（歴史的分野）

資料や基礎的・基本的な知識を活用しつつ、「明治維新とは、どのような国づくりを目指した動きだったのか」という概念的な知識が獲得されているかを評価しています。

明治維新とは、列強から自分たち日本を守るのにできる十分な力のある国づくりをめざした動きだと考えました。

そう考えた理由は、大政奉還のあと、明治政府は、統一国家であり、経済力や軍力が諸国より進んでいる列強と並ぶことのできるように、版図拡張や廃藩置縣を行い、日本を統一国家にするための改革を行っていき、軍備の点でも富国強兵をスローガンとして列強が東アジアに勢力を伸ばしているのに危機感を覚えた徴兵令を出し全国統一の軍隊を作らせたこと、また近代化のために西洋の技術や知識を取り入れたこと、国民の意識向上が近代化の基礎だと考え、学制を公布したのも列強に対抗するための必要からです。

これまで学習した知識を類型化したり、論理的に関連付けたりして多面的・多角的に考察しているかを見取り、「思考・判断・表現」を評価しています。レポート形式を用い、評価基準を明確にすることで、2つの観点を見取ることが可能になります。